

会 議 録

会議の名称	第3回 第2次宍粟市男女共同参画プラン策定委員会	
開催日時	平成31年3月4日（月）13:30～16:00	
開催場所	宍粟市役所 本庁舎 4階 会議室	
会長氏名	中村会長	
委員氏名	（出席者） 三渡副会長、梶浦委員、久保委員、 高井委員、野谷委員、一坪委員	（欠席者） 石原委員、稲垣委員、小西委員
事務局氏名	富田部長、大田次長、西田課長、柴原副課長 (まちづくり推進部人権推進課)	
傍聴人数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決定事項	(議題及び決定事項) 1. 開会 2. あいさつ 3. 説明事項 (1) 市民及び事業所調査の結果概要について (2) 「男女共同参画ワークショップ」の開催について 4. その他 ・今後のスケジュールについて<別紙> 5. 閉会	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認 (記名押印)	(委員長等) 原本に記名押印 _____ ⑩	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1. 開 会 2. あいさつ
事務局	<p>年度末の大変お忙しいところ、第3回になります男女共同参画プラン策定委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>いよいよ平成30年度も終わりということで、既に議会も始まっています。31年度の予算を受けまして、これから議会と協議をしていくことになるのですが、もうすぐ新しい元号に変わりますので節目の年になるかと思っております。これから男女共同参画プランを策定していくわけですが、新しい時代に向けてのプランとなりますよう、本日も建設的なご意見をいただければと思います。</p> <p>今日は、先般行いました市民及び事業所調査の結果概要につきまして報告させていただきます。それから、今後の取り組みにつきましてご協議いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	続きまして、会長よりごあいさつをいただきます。
会長	<p>インフルエンザがすごく流行っていましたが、皆さんいかがでしたでしょうか。元気にお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>今日の参議院の予算委員会でも、千葉県野田市での児童虐待について取り上げていました。心を愛すると書いて心愛（みあ）ちゃん、すばらしい名前をつけた親が虐待死を起こしてしまいました。暴力というのはどこかで学ぶものだといつも感じます。愛も学びますが暴力も学びます。沖縄県の糸満市に住んでいる知り合いから聞いたのですが、あの家庭はDV家庭でお父さんが自分の実家がある野田市に無理やり連れていったそうです。あの状況は危ないと糸満市も考えていたようで野田市へ情報を出していたのですが、うまくいきませんでした。虐待が今前面に出ているのですが実はその奥に激しいDVがあり、お母さんも逮捕されていますが、お母さんこそ被害者で夫の支配下に置かれ人格を損なわれてしまっています。あの事案だけでも教科書に載るような典型的な例であり、DVと虐待は結びつけて考える必要があると思います。今回の調査結果を見せていただいてもDV事案が結構な数値で実数としてあがっており、そこに子どもがいれば、もうそれは虐待事案です。行政的にDVをどこに位置づけるかという、実は福祉ではなく男女共同参画になります。DV対策をプランに盛り込むのは男女共同参画で、DVの措置をするのは社会福祉や子育て支</p>

	<p>援なのですが、縦割り行政でパイプがうまくつながっていない場合は虐待もDVも福祉ですからという話を県内でもよく聞きます。宍粟市さんがプランを立てるときには、そういう縦割りではない、市民のための生きた施策を打っていただきたいですし、悩んでいる子ども、そして大人も助けなければならない、それが行政の使命だと強く思います。政治家は虐待しか問題視していません。虐待で子どもの命が失われたから国会で取り上げていますが、それだけではなくその背景には配偶者へのDVがあり、大人の問題であることを認識すべきですし、また、個の問題ではなく社会の問題だと捉える必要があります。ということで、このプランは皆さんの生活に直結していくものですので、本日もいろいろなお意見をいただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>3. 説明事項</p> <p>(1) 市民及び事業所調査の結果概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回答率 市民 1,060/2,500 件 (42.4%)、事業所 36/50 件 (72.0%) ・ 自由回答<別冊> <p>～事務局より「宍粟市男女共同参画社会づくりのためのアンケート結果報告書」に基づき説明（市民調査結果）～</p>
<p>会長</p>	<p>説明の中でもあったように、宍粟市の特徴として女性の就業率が高いということがありますね。事務局は、今回は第4章の仕事・働き方と第6章の地域活動への参加に重点を置きたいとおっしゃっていたかと思います。</p> <p>このデータは面白いと思いながら読み込んだのですが、一番気になったのは第3章の家庭生活などについて、27 ページの間 11 のところです。なぜ女性が外に参画できないかという、やはり家庭生活に原因があると思います。夫は外で働き妻は家庭を守るべきであるという考え方に賛成、どちらかといえば賛成の方が 36.4%、ほぼ4割いらっしゃるわけです。一方、反対、どちらかといえば反対の方が約 45%いらっしゃいますが、皆さんはこの数字をどう思われますか。妻は家庭を守るべきという中、就労を中断することが結局はキャリアを捨てる結果になり、本当は管理職になれる能力をもつ人が出産・育児で職場を離れ、子どもが大きくなったときにゼロスタートであるのが当たり前のようになっています。同期で入った男性は仕事を続けながら着実にキャリアを積んでいき、10年たてばある程度の能力を身につけて管理的な立場の勉強もできるのに、女性はその10年間を棒に振ってゼロスタートというのが一番大きな問題だと私自身は思っています。子育てと介護というのは宍粟市に限らずキーポイントになりますが、男性でも親の介護のために仕事を辞めた人が私の周りでも結</p>

構いますので、介護に関してはかなりハードルが下がっている実感があります。皆さんはいかがでしょう。

第5章の子育てのところもすごく気になりました。71 ページをご覧ください。男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよいというのが、そう思う、どちらかといえばそう思うを合わせて62.1%です。この数字は画期的に多いですね。平成13年に内閣府が青少年に関する調査を行っているのですが、その数字と一緒です。平成13年といえば男女共同参画社会基本法ができて2年目で、もう20年近くたっています。男の子らしく、女の子らしくのニュアンスがこれではわからないので詳しくはいえませんが、やはり男は稼ぎなさい、女は家庭を維持できるようにしなさいというジェンダーのところが色濃いかとちょっと思いました。一方、これと大変矛盾するデータが73ページにあります。男の子も女の子も生まれもった個性や才能を可能な限り活かして育てるのがよいという割合が、そう思うとどちらかといえばそう思うを合わせて9割を超えています。すごく矛盾しているのですが、この矛盾点は何でしょうね。その子を見てその子なりの育て方をすればよいと考えている人が9割以上いるのに、男の子は男らしく、女の子は女らしくというところが、育てる側も大いにストレスがあるのではないかと、面白い数字だと思いました。女性活躍が阻まれているという事実があるのなら、やはり子育てのところから考えていくべきで、男の子でも家庭生活を大事にしてそのスキルをもたせ、女の子でも家事さえできればよいわけではなく、社会に出て働き自己実現をしようとする子を増やしていかなければならないので、子育てのところが必要な要素かと思えます。

もう一点は第7章のハラスメント・DVのところです。回答をパーセントで示していますが、ハラスメント、虐待、DVに関しては実数がすごく大事だと私は思っています。88ページにハラスメント被害を受けた割合が17.3%と載っており、見過ごしてしまいがちですが、計算すると回答者1,060人のうち183人となり、宍粟市の人口に換算して例えば20倍にすると3,660人にもなります。そういう実数の感覚でデータを見てほしいと思います。93ページは配偶者等からの暴力で、7.7%の方が被害を受けているのですが、実数が1,060人中の81人で、これも20倍すれば1,620人とすごい数字になります。81人の内訳としては男性が14人、女性が67人で、男性も被害に遭っています。94ページはデートDV被害についてですが、被害者2.8%の実数は1,060人のうち約30人です。これも20倍で考えると見過ごせない数字だと思えます。だれかに相談しましたかという設問では、だれにも相談しなかった人がほぼ半数ですが、実はどこで調査してもこのくらいの数字になります。だれにも相談しなかった理由としては、恥ずかしくていえなかったというのが最も多いのが一般的ですが、宍粟市の場合どこに相談すればよいかわからなかった方も結構おられるようなので、施策として打ち出していかななくてはならないところかと思いました。

事務局	<p>事務局が重点を置きたいとおっしゃっている職場及び地域での女性の活躍や参画を推進するために何をしなければならないのか、女性の意識を変えたり、女性に入ってくださいということも大事ですが、もう少し足元を見る必要があると思います。</p> <p>全体の感想を順番におっしゃっていただければと思います。</p>
委員	<p>膨大な量のアンケートですので、答えるのが大変だっただろうと思います。数字がいろいろ挙がっていますが、私たちがこの数字を理解するのも難しいですね。この数字から何を見出し、どのように活かしていくのかというのがあります。</p> <p>男の子らしくまたは女の子らしく育てたいのと、生まれもった個性や才能を活かして育てたいというのは矛盾していると会長はおっしゃっていましたが、多分回答した人は生まれもった個性そのものが男若しくは女だと捉えていると思うので、回答者の中では矛盾していないのではないのでしょうか。</p> <p>DVについてどこへ相談してよいかわからなかったというのは、そんなこともあるのだなと感じました。それから、自分が受けている行為がDVとは認識していなかったというのは、暴力で支配された人の脳にはそのように刷り込まれるのかと思いました。</p> <p>立派なアンケート調査の結果ですが、これをどこにどう結びつけていくかが一番の課題だと思いました。</p>
委員	<p>淡々と説明されていましたが、よくわかりませんでした。</p> <p>45ページのグラフにしても、仕事を優先しているが19.8%、家庭生活を優先しているが14.4%、仕事と家庭生活をともに優先しているが19.7%、この数値の違いは何でしょう。私は素人なので、この数値をうまくつかめません。</p> <p>ハラスメントにしてもどの程度が虐待なのか、本人も知らないし私たちもわかりません。それをどのように人々に周知していくのだろうかと思います。</p> <p>91ページにハラスメントを受けたとき家族・友人などに相談した、職場や学校の相談窓口で相談したという回答がありますが、とがめられたり相談内容を吹聴されなかったかが気になります。職場であれば相談したことで居づらくなったりしないかと思いました。</p> <p>以上ですが、私には難しく、もう少しわかりやすく説明していただきたかったと思います。</p>
会長	<p>今、とても大事なことをおっしゃってくださいました。相談というのはだれかれなしにできるものではありませんよね。</p>

委員	<p>私はボランティアをしています、相談を受けても安易なことはいえません。だから、民生委員さんに助言を求めるよう促してしまいます。逃げているわけではありませんが・・・。</p>
会長	<p>民生委員さんもしいわば素人で、相談の受け方についてアドバイスを求められたことがあります。自信をもって答えられないとおっしゃっていました。だから、専門機関と相談を受ける専門家が絶対要ります。</p>
委員	<p>専門の方に来てもらうとすれば、それは経費としてあげられるのですか。</p>
事務局	<p>経費といいますか、このプランを立てる中で相談体制の充実ということが必要な施策になるかと思えます。私ども人権推進課にも相談窓口がありますが、そこで全部賄えるかどうか、福祉のほうと一緒にするかが今後の議論になってくるかと思われます。</p> <p>最初におっしゃっていた仕事、家庭、地域活動等の優先度でございますが、私の理解では、例えば仕事を優先していると回答された方は仕事以外に優先するものがほぼなく仕事一筋、仕事も家庭生活も地域・個人の生活も優先していると回答された方は優先順位が同じくらいのレベル、ワーク・ライフ・バランスという言葉がありますが、二方よし三方よし、どこにも偏らないように全てを充実させたいと捉えている方ではないかと思えます。個人の顔、地域での顔、職場での顔のように、バランスを意識している方が仕事も家庭も地域活動等も優先していると回答されたのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>33 ページ辺りもよくわかりません。</p>
会長	<p>33 ページは生活費を誰が稼いでいるかということですね。だから、夫の割合が高くなっています。夫婦同程度が 19.3%ですが、この方たちはどちらも公務員のような気がします。やはり生活費は男性が担っているのでしょうか。データを見慣れていなければ、何を見ればよいのかわからなくて当然です。ご自分の関心のあるところを重点的に見ていただければと思います。</p>
委員	<p>2 ページに回収結果が載っていますが、回収率 42.4%というのはちょっと低いように思います。</p> <p>4 ページ、回答者の年齢層ですが、60 歳代、70 歳代が 5 割以上を占めているのが気になります。若い人の意見をもっと知りたいと思いました。</p>

会長	若い子育て層の意見を知りたいと思うなら、事務局からお願いして学校・幼稚園を通せば回収率が8～9割まで上がります。ただ、コンサルタントを入れると回収率よりも統計の信ぴょう性のようなところを重んじられます。
委員	公平に郵送された結果、このようになったのだと思います。 9ページの下にある世論調査や県の調査と比べて、ワーク・ライフ・バランスの認識度が低いですね。
委員	回答者の年齢層が高い、全てはそこからスタートしています。この結果は高い年齢層の方によって導き出されたものであって、宍粟市の実態を表しているとはいえないと思います。
委員	33ページの辺りを見て、理想と現実のギャップがかなりあると思いました。現実には男性優位が目立つのですが、理想となるとどの項目も男女平等が望ましいということで、このギャップをどう埋めていくかが課題だと思います。回答者に高齢者が多くても、あるべき姿はきちんと認識されていますね。 74ページの男の子と女の子で進学先に差をつけない方がよいと回答している割合が、そう思う、どちらかといえばそう思うを合わせて8割を超えているのに驚きました。回答者に高齢者が多くても女の子に対して将来を期待している人が結構いるということですよね。 ハラスメント・DVは2割近くの方が受けたことがあると回答されています。受けた場で断然多いのは事業所ですが、事業所調査の結果を見ると問題になったことはないという割合が8割で、疑問に感じました。
委員	事業所としての回答ではあるけれど、実は回答者個人の意見が入っているのではないのでしょうか。
会長	先ほどおっしゃっていた理想と現実のギャップが最もあるのは家事のところ、46%の差があります。やはり、家庭の中で女性がストレスをためているのではないのでしょうか。本当は両方でする方がよいけれど現実にはできていないことが家庭内にあります。次に理想と現実のギャップがあるのが子育てと介護です。子どもを育て家庭を運営していくうえで、女性にかかる責任が重いというのが現実だと思います。
委員	学校で男女差別がないのは特別な社会だからでしょうか。
会長	その特別な社会から一般社会へ出たときにショックを受けるわけです。

副会長	そのときが問題ですね。
会長	兵庫県の場合、確かに男性で育児休暇を取っているのは学校の先生が多いですね。
委員	私の周りでは全然いません。
会長	市役所で育児休暇を取った人がいて、休暇を取らせた課長とその取った本人がこの間登壇していました。珍しいから取り上げられるわけです。高校の男の先生は育児休暇を取る人が多くないですか。
委員	身近にはいません。育児休暇を取るのは女性ばかりです。
会長	女性は100%取れるようになりましたからね。
委員	民間では育児休暇を取ろうとしたら解雇されたというケースはざらにあります。子どものことが気になるなら辞めればと普通にいわれます。学校のように守られているところは取りやすいですね。
会長	労働者が減ってきているので、女性が4～5年勤めてスキルがあれば子どもができたから辞めてとはいえない状況なのではないですか。
委員	中小企業の場合、一人が産休や育休を取ったらその人が抜けた穴を埋めることができません。だったらその人に辞めてもらって、新卒の子なりを採用しようとするのではないかと思います。
会長	そんなことをする会社に新卒の学生は寄りつきません。学生のネットワークはすごいですからね。
委員	回答者の比率が、年代が高くなるにつれて上がっていますが、これはあくまで回収できた1,060での比率ですよ。回答されなかった人も含めた2,500での年代ごとの比率もわかりますか。どの年代の回答率が低いのかも知りたいと思っています。
事務局	回答率が低いのは、間違いなく20歳代、30歳代の若い方でございます。
委員	何歳代に何通というのは、何に基づいて決められたのですか。

事務局	人口比率です。世代を三つに割りまして、人口が少ない年代を上乗せしました。
委員	元々人口の少ない年齢層は回答率が低くて当然だから、何ら問題はないわけですね。例えば2,500のうち20歳代が600とすると、その600のうち回答された方は何%かを知りたかっただけです。 数字がいろいろと出ていますが、この数字の良し悪しがわかりません。
会長	良いとか悪いとかではなく、実態です。
委員	ほかの自治体と比べて宍粟市の実態がとてもよろしいとか、全然だめだとか、そういうことすら知識がないからわかりません。斜め読みした限りではすごく良い数字ではないかと思いましたが、どうでしょうか。男女共同参画社会という言葉の認知度が55%もあります。
会長	高齢者の方が多く回答していることをかなり考慮すれば、5割を超えているのは良い数字かもしれません。今の世の中、社会に関心をもって社会教育や生涯学習として一番勉強しているのは60歳代です。子育て中の方や働き盛りの方は育児や仕事をするのが精一杯で、そこまで社会に関心をもてません。女性で意識が一番高いのは50歳代、60歳代ですね。
委員	時間ができて、ほかのことに目を向ける余裕がありますからね。
会長	私は60歳代の女性が一番パワフルだと感じています。
委員	まだ介護の負担がそれほどなく、子育ても卒業していますしね。
委員	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたいというのは当たり前の話で、それをDVや差別に結びつけようとしていること自体おかしいと私は思います。それから、才能を活かしてやりたいというのも自分の子や孫ならだれでもそう思うのではないですか。これにそう思わないと答えた人を掘り起こしてみたい気もします。
委員	そう思わないのはなぜですかと聞きたいですよ。
委員	そう思うのが当たり前のことにそう思わないと答えた人に注目して掘り下げたいですね。

会長	私が住んでいる地域には、かつて三草山城という一万石の城がありました。全てが閉鎖的で新しいものを受け入れないし男性優位の地域で、ずっと生きづらさを感じています。
委員	後ほど説明があるかと思いますが、市町村女性参画状況見える化マップというものがありますよね。自治会長に占める女性の割合を示したもののようですが、宍粟市はゼロです。姫路市は34人いるので多いように感じていたのですが、割合に直せば3.7%でしかないので、意外と少ないですね。
会長	自治会長と区長では扱いが違いますよね。自治会長というのは、例えば大きな団地ができて、その団地内で自治会の代表を順番に務めるような感じです。
委員	宍粟市は女性の自治会長がゼロですから、決定権が女性にないということですね。
委員	女性が地域活動のリーダーになるためにはどのようなことが必要だと思うかという設問がありましたよね。女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすという回答が最も多く、次に多かった回答は女性自身の抵抗感をなくすでした。私としては、女性自身の抵抗感をなくすことが大事だと思います。男性は女性にどんどん入ってきてもらいたいのです。ところが、女性が拒否します。
会長	要は、経験が足りなさすぎるのです。自治会に行政は原則口を出せませんが、小野市で自治会役員の三役に女性を入れれば市から10万円出すことにしたら、女性の就任率が跳ね上がりました。だから女性も経験すればできるし、男性も女性に入ってもらおう思考が必要です。
委員	小さい自治会の場合は自治会のお金も少ないため、市がお金を出してくれるのであれば女性に入ってもらおうとなりますが、大きな自治会にはそれなりのお金があるから、別に女性に入ってもらわないといけないようなことになりませんか。
会長	実は、そういう特異な町が一つありました。ところが、周りの町ではどこも女性が入ってきたため、マイノリティになって肩身が狭いようです。
副会長	27 ページの夫は外で働き妻は家庭を守るべきであるという考え方をどう思

	<p>うかについて、わからないと回答している割合が多いのですが、これは71ページの男の子らしく、女の子らしくとも少し関係するのではないかと思います。ミモザフェアを開催した際に、男の子らしく、女の子らしくというのは男女共同参画の考え方と合っているか合っていないかとクイズを出したのですが、男らしく、女らしく育てるに○をつけた人がたくさんいました。そこで男女共同参画について説明したところ、間違いに気づかれたのです。</p> <p>今すぐく男女共同参画のセミナーが盛んで高齢者を対象としたものもあり、言葉としては随分知られてきてはいますが、ただ、理解していない、男女共同参画について本当にわかっていない人が多いと思います。</p> <p>76ページ辺りから自治会に関する調査結果が載っており、方針決定の場で性別関係なく発言しているという割合が結構高いので、宍粟市の各自治会は男女平等のように感じられるのですが、現実には宍粟市に女性の自治会長はいません。老人クラブの長も男性ばかりです。</p> <p>知っているけれど本当に理解していない、参加と参画を混同している人が多いと思います。話し合いの場で発言はしても女性に決定権がない、女性の自治会長がゼロというのが宍粟市の実態を如実に表しています。</p> <p>27ページに戻りますが、夫が外で働き妻が家庭を守るべきであるという考え方をどう思うかにわからないと回答した割合が16%で、下に載っている世論調査と比べて10ポイントぐらい高くなっています。このわからない、理解できていないというのが現状で、皆さん理想は高くもっているけれども、その理想を実現するためには、まずは男女共同参画について本当に理解することから始めるべきではないかと思います。</p>
事務局	～事務局より「宍粟市男女共同参画社会づくりのためのアンケート結果報告書」に基づき説明（事業所調査結果）～
会長	この区分でいくと、大企業といわれる従業員数 501～1,000 人のところが1社、101～300 人のところが16.7%ですから6社ですね。従業員がそれなりにいる会社は国・県からの情報も入っていろいろとご存じだろうと思いますが、それ以外のところは収益を出して社員さんに給料を払って経営を安定化させることだけで精一杯なのではないでしょうか。
事務局	従業員数2桁台のところがほとんどかと思っています。
会長	宍粟市の若い子が、ふるさとを大事にしたいと残りたいのに働く場所がないとネットに書き込んでいました。働く場所がないから若い人が流出してしまうのです。

委員	働く場所がないから、帰ってこいともいえませんしね。
会長	うちの娘も大学院まで出したがために外へ出ていきました。いずれにしても、働く場は大事です。その働く場が女性にとっても男性にとっても居心地のよいところであれば、人口流出を防げるのではないのでしょうか。このデータを市レベルで取れるというのはすばらしいと思います。これをもって、プランに何を盛り込めるかですね。
委員	ハラスメント対策のところでは実施予定なしと回答している事業所も結構あるのですが、なぜ実施予定がないのかという質問をしてほしかったと思います。実施予定なしで終わりなら、何も改善されません。
会長	個人事業主レベルではできないけれど、例えば行政がハラスメントの相談窓口を設置してくれるのであれば職員にその紹介をするというようなことも一つの対策ですよ。行政にはできても企業さんには難しいことが多いと思います。
事務局	行政としましては、男女共同参画の基準を満たしているところをえるばし認定企業として優遇措置を講じています。
会長	ただ、認定を受けているのはほとんど神戸市内の企業ですよ。
委員	宍粟市には人権に関する相談窓口がありますと周知しても、皆がどの程度把握しているか、また、相談内容が外に漏れないかという心配があります。
会長	そこが行政的にはなかなかつらいところで、周知できたとしてもすごくハードルが高いですね。 118～119 ページにいろいろな休暇制度が載っています。その中で育児休業を該当者のほぼ全員が取得している割合が 55.6%ですが、かたや制度がない事業所が 11.1%あります。制度がないのはもちろん問題ですが、育児休業の取得割合が 5割以上というのは、育児休業に関する周知は行き届いているのかとも思います。ただ、該当者と聞かれて女性しか思い浮かべていないかもしれません。子の看護休暇も意外と取得できています。学校では看護休暇は結構取りにくいですよ。看護休暇そのものをご存じでない先生もいらっしゃいました。
事務局	育児休業の定義が十分に伝わっていない可能性もあるかとも思います。

中村会長	<p>出産前後で取る休暇を育児休業と思っているところもあるようで、この55.6%の中にそのケースも含まれているかもしれません。いずれにしても、育児休業を取れているところ、取れていないところでこれだけ差があるのなら、その原因を知りたいですね。規模なのか、あるいは社長さんの考え方でしょうか。取得できる会社には人は集まると思います。</p>
副会長	<p>企業を対象にした男女共同参画に関する研修を宍粟市独自で行ったりはしていないのですか。</p>
事務局	<p>市主催というものはございません。</p>
委員	<p>講演会ぐらいですね。</p>
事務局	<p>今日該当の委員が来られていたら、商工会で研修があるかどうかを伺えたのですが。</p>
会長	<p>商工会は研修をしなければならないと思います。小野市ではそうでした。ただ、商工会独自で行えるようなネットワークはないため、男女共同参画センターが商工会とJAとの共同開催でワーク・ライフ・バランスの講座を開催しました。</p>
事務局	<p>法律の周知は労働局が直接されています。</p>
会長	<p>家内工業のようなところは別として、ある程度の職員がいる事業所は知らないでは済まされません。</p>
副会長	<p>従業員数が多ければ確かに知らないでは済みませんが、10人以下の小さな会社の場合全然知らないということが多々と思います。業界単位でかトータルではわかりませんが、年に1回でも市主催で男女共同参画に関する研修を行う必要があるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>(2)「男女共同参画ワークショップ」の開催について (目的) アンケート調査では不足する市民意識の深い部分について意見等を収集する (日程) 平成31年3月15日(金)13:30～ 宍粟防災センターにて (参加) 女性セミナー参加者、女性活動グループ代表者を主として、男女共同参画に関心のある男女約20名</p>

事務局	<p>～事務局より「男女共同参画ワークショップ」開催概要について説明～</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールについて<別紙>
	<p>～事務局より別紙資料に基づき説明～</p> <p>第4回策定委員会は4月下旬～5月に開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村女性参画状況見える化マップ、ジェンダーギャップ指数、SDGs（持続可能な開発目標）について<別紙>
会長	<p>～事務局より別紙資料に基づき説明～</p> <p>先ほどあったワークショップには、この策定委員会の皆さんも参加されるのですか。</p>
事務局	<p>特段お願いはしておりませんが、よろしければお越しください。</p>
会長	<p>私がファシリテーターをするのですか。</p>
事務局	<p>プラン策定支援事業者がさせていただきます。</p>
プラン策定 支援者	<p>全体の進行はこちらでさせていただくのですが、市職員にもグループの中に入っていただきまして、各グループの進行役を市職員若しくは私どもの社員が務めます。</p>
会長	<p>私は何をすればよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>ワークショップの状況をご覧になって、よいものがあれば拾っていただければと思います。たった1回、2時間程度のワークショップということでトピックを厳選しまして、問題解決につながるよいアイデアが出ましたら今後のプランに載せていけるかと考えております。その取りまとめにつきましては、次回皆さんにご報告させていただきます。</p>
会長	<p>皆さんから何かございませんか。ないようですので、進行を事務局にお返しします。</p>

事務局	<p>5. 閉 会</p> <p>本日は長時間にわたりまして貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>このアンケートは第1次プランの策定時には実施しておりませんでしたので、宍粟市にとって初めての指標ということになります。ですので、作為的なことをせずに実施しました。この結果を参考にしながら、来年度はいよいよ計画策定となります。</p> <p>次世代につなぐ、次世代の人々に住んでよかったといってもらえる新しい男女共同参画推進計画をつくりたいと思っております。先ほども説明しましたが、SDGsの中に入っていますよう8に個人的な問題から世界をめざす取り組みになってきています。そのために、20世紀とは違う価値観や仕組みで社会をつくっていくという視点が必要になってくると思います。また、女性対象の施策ではなく男性にとっても意義があり、宍粟市の活性化にも有効という認識をもって取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。